

姉妹都市大崎市の復興を願い 義援金 5 千万円超が贈られました

3月11日に発生した東日本大震災によって、姉妹都市である宮城県大崎市では、人的被害をはじめ建物被害が4千5百棟を超え、道路、上下水道といったライフラインも大きな被害を受けました。未だに通行規制されている道路では、その復旧に時間がかかるそうです。

町内の各方面から、当別町と深い縁のある大崎市（旧岩出山町）に対して、支援をしたいという声が増しに大きくなり、町内会、経済団体、企業などの多くの方々が「宮城県大崎市復興支援委員会：鈴木智久代表（美里町内会長）」を立ち上げ、義援金による協力を呼びかけ、その額が1千2百万円を超えました。

町としても、3月開会の町議会定例会の議論を踏まえ、義援金4千万円を計上し、支援委員会と合わせて5千万円を超える義援金をお贈りすることができました。



伊藤康志市長から当別町民へ感謝の言葉が述べられました（4月28日大崎市役所にて）



5月11日 町議会臨時会

5月11日に町議会臨時会が開会され、平成22年度一般会計補正予算（義援金4千万円を含む。3月31日専決処分。）の報告がなされました。

その中で、「補正予算を専決処分する前に、議会を開いて審議できなかったのか？」等の質問がありましたが、町は「被害が甚大で速やかな支援が必要」と判断し、地方自治法に基づき専決処分を行った説明がされ、賛成多数で承認されました。

お近くに被災者の方はいませんか

当別町では、東日本大震災に伴い、当別町に避難している方の実態を把握し、避難者に対する支援や情報提供を行っています。該当する場合は町総務課までお問い合わせください。

- 対象者 東日本大震災の影響により当別町に避難された方
- 問合せ 総務部総務課総務係（☎ 23 - 2330）

宮城県大崎市復興支援委員会から 町民の皆さんへ感謝と報告

義援金総額 12,827,160 円 (5月12日現在)

〈鈴木代表から〉

3月22日、町内会会長の会合で大崎市復興支援委員会の立ち上げが決定されました。委員会では義援金による協力を呼び掛けることになり、私からは「身近に災害が起こった時、親兄弟、親戚を助けるのは当たり前、早急に取りまとめては。」と提案したところ、全会一致で義援金による支援が決定しました。その後、経済団体も加わることで、協力の輪が広がりました。

当別町の開拓の礎になった旧岩出山が合併し、大崎市になっても、今年の140年記念パレードに見るように絆は続いています。岩出山の象徴である旧有備館の倒壊に心を痛めた方も多く、交流を続けてこられた経済団体、観光協会など様々な団体、さらに有志の方からも応援をいただきました。もとより募金は善意で行うもの、金額の多寡に係らず、子どもから団体の役員の方などそれぞれの立場で、ご協力いただいたことに、町民全体の善意が感じられ、その気持ちは大崎市にも届きました。

所期の目的を達成できたことから、委員会は5月13日で解散いたしました。関係の皆様にあらためて深く感謝いたします。



宮城県大崎市復興支援委員会 に寄せられた募金の内訳

※ () は団体、個人数等

町内会、団体、企業 (116)	12,266,349 円
個人 (16)	398,521 円
募金箱 (9箇所)	162,290 円
合計	12,827,160 円

大崎市以外へも様々な募金活動が 行われました

※ () は取りまとめ日

日本赤十字社 (5/31)	1,211,494 円
当別町共同募金委員会 (5/17)	1,841,324 円
(社) 当別青年会議所 (3/24)	190,901 円
当別町商工会 (4/25)	114,385 円
商工会青年部 (4/19)	88,000 円
民生児童委員協議会 (4/26)	74,532 円
町内店舗やコンビニ各店においても	

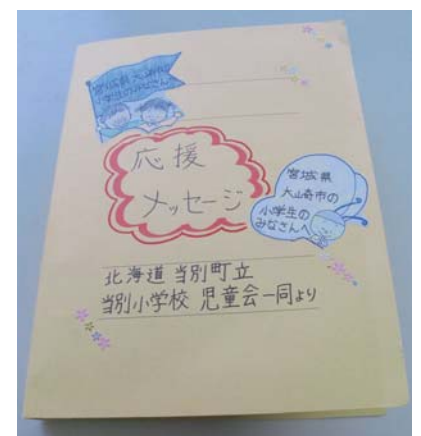
各方面に広がりを見せた募金活動



ミニバス少年団では、ゲーム形式で募金を募りました



(社) 当別青年会議所は早朝のJR駅で募金活動を実施



当別小学校児童会は被災した学校にメッセージを添えて